

「不正な管理人のたとえ」

2015年10月10日

ルカによる福音書 16 章 1 節～9 節。イエスは、弟子たちにも次のように言われた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄使いしていると、告げ口をする者があった。そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』

管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。『油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい。』また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。」

主イエスは弟子たちに「不正な管理人のたとえ」を語られた。理解しにくい譬えである。ある金持ちに一人の管理人がいた。彼が主人の財産を無駄使いしていると告げ口する者がいた。主人は彼を呼びつけ、告げ口の真偽を問い、会計報告を出しなさい、お前を管理人にしておくことはできないと言った。管理人は仕事を辞めさせられたら困る。土を掘る肉体労働はできないし、物乞いするのは恥ずかしいと慌てた。そこで、辞めさせられた時、自分を迎えてくれる者を作ればいいのだという名案を思いついた。主人に借りのある者を呼び出し、借用料を聞いた。油 100 バトス借りた者に、50 バトスと証文を書き直させた。100 バトスは 4,000ℓで、1ℓを 200 円とすると、800,000 円に相当する。小麦 100 コロスを借りた者に、80 コロスと証文を書き直させた。100 コロスは約 40,000ℓで、1ℓを 0.7 kg とすると、28,000 kg になり、1 kg を 200 円とすると、5,600,000 円の大金に相当する。5 割、2 割を差し引かれた人たちは大喜びであろう。主人は、この管理人のやり方を見て、褒めた。何と気前のいい、太っ腹の主人であろうか。

道徳的に見れば、管理人の行為は許されるものではない。ところが、主イエスは弟子たちに「この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている」と言われた。ガリラヤ出身の弟子たちは貧しさに耐え、光の子として律儀に生きていた。ずる賢く振る舞っているこの世の人々を、見倣いなさいと言ったのであろうか。さらに「わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる」と言われた。

お金はこの世を生きる手立てで、いか様にも用いられる。共に生きる友人を持つことが全てに勝る。そして、金持ちの主人とは神である。神に借りのある者を減額してやることは、永遠の神の国に迎えられることになるのではないか。いずれにしても、太っ腹の神に甘え利用して、友を作り、天に迎えられる算段をしても良いということではないか。